



発行／青森県立自然ふれあいセンター 〒038-1301 青森県青森市浪岡大字大釈迦字沢内沢 1-1
 TEL 0172-62-4527 FAX 0172-62-8510 URL <http://www.bonjyu-furesen.info/> メールアドレス bonjyu@jomon.ne.jp

□ 行事レポート □

● 新春梵珠山登山

1月8日(日)



● 少年自然探検隊(冬) in 梵珠山

1月22日(日)



● 梵珠山雪下ろしツアー ①

2月5日(日)



● 梵珠山雪下ろしツアー ②

2月5日(日)



● 梵珠山アニマルウォッチング

3月5日(日)



● 硬雪トレッキング(横岳)

3月12日(日)



● マルバマンサク

齋藤 信夫 (青森自然誌研究会)

毎年雪解けが近づいてくると、小さい春を見つけたということでニュースに取りあげられる樹木がある。マンサクである。ブナやミズナラなどの林の下生えとして生育し、雪が多い日本海側の山岳では、葉の先端が丸みを帯びるマルバマンサクというタイプが分布している。マンサクの仲間は花びらの色や萼の色などによって、細かく分けられるようだが、それぞれの間タイプもあり、なかなか境界線を引くのが難しいという。植物研究家の細井幸兵衛氏は葉の丸みは分類のポイントになりがたいことを述べていた。梵珠山でも個体によって花や萼の色に差が見いだされるような気がするが、地理的にはきっと、マルバマンサクとしていいのだろう。

マルバマンサクは北海道西南部から鳥取県までの主に日本海側に分布する落葉低木といわれ、梵珠山ではサワグルミの道やマンガンの道で見かける。しかし、量としては多くない気がする。白神山地の山岳では頻繁にマルバマンサクを目にした記憶があるし、岩木山でも量的には梵珠山よりは多めと見た。昔、津軽半島のブナ林やミズナラ林を調べた植生調査資料をまとめていたときに、津軽半島を北上するに従ってマルバマンサクを確認出来る林が少なくなっていくことに気づいた。マルバマン

サクは湿性気味の場所よりも、土壌が少なく乾性的な場所によく見られる。津軽半島を北上するに従いマルバマンサクが生育する林が減っていく事実から、津軽半島が湿潤環境下にあるためだろうという推測をしていたことを思い出す。

梵珠山ではマルバマンサクは3月下旬頃からいち早く花を咲かせる。周りにはまだ雪が沢山残っている時期である。4枚の花びらは子どもの頃に遊んだ「吹き戻し笛」のような雰囲気でも、まるでシュレツダーにかけられた後の細長い黄色のポリエチレンテープの破片のようである。花の時期のマルバマンサクには葉と言えそうなものは見あたらない。葉芽は花が終わってから活動し始めるのである。果実は10月以降になると種子を弾き飛ばすようになる。マルバマンサクの果実で思い出すのは、私がまだ蟹田町(現外ヶ浜町)に住んでいた30代の頃のこと。近くの丘陵で採集してきた果実付きのマルバマンサクの一枝を机の花瓶にさして数日後、「パチン」と何かが炸裂した音がした。よく見ると、果実が割れて、中に潜んでいた種子が壁で跳ね返り、とんでもない方向に落ちていた。その一件でマルバマンサクの種子散布はバネ式であることを知ったのだった。



マルバマンサクの花 (2019年4月4日)



紅葉し始めたマルバマンサクの葉 (2020年10月19日)

		生物暦 (昨年) 4月												☀️☁️☔️: 天気																
														植物 野鳥 動物 昆虫 は虫類・両生類																
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
観察できたもの	マルバマンサク	イワナシ・ハンノキ	キセキレイ・カワラヒワ	カモシカ・コハクチョウ	キセキレイ・カワガラス	ミスバシヨウ	スコットカメムシ	ハンノキ	キクザキイチゲ・カタクリ	フクジュソウ・ウグイス	アラゲヒヨウタンボク	ヤマアカガエル	エンレイソウ	クマタカ・カシラダカ	アオゲラ・キジバト・サル	ベニマシコ・カシラダカ	ハルニレ・オオバキスミレ	キツネ・クマタカ・コゲラ	キセキレイ・カケス	クロサンショウウオ	サル・カワガラス	ヤマドリ・アオゲラ	コヨウラクツツジ	スミレサイシン	シユンラン・オオルリ	トウホクサンショウウオ	オオヤマザクラ	オオカメノキ・ヒキガエル	シラネアオイ・ノゴマ・アオシ	キバナイカリソウ・シートテハ
天	☁️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☔️	☀️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☁️	☁️	☀️	☀️	☁️	☀️	☀️	☀️	☀️

●産地によって色が異なる昆虫

市田 忠夫 (津軽昆虫同好会)

昆虫には、同じ種類であっても産地によって、色彩や斑紋が異なるものがあります。そうしたものは何種類かありますが、今回はハナウドゾウムシについて紹介します。

ハナウドゾウムシは中型のゾウムシですが、その名のとおりハナウドについているところは見たことがありません。このため、本来の食餌植物が何であるのかは知りません。

私は、このゾウムシを岩木山の山頂・青森市の野内川中流・八甲田大岳の山頂で見つけたことがあります。

これらの3地点で見つけたハナウドゾウムシは、それぞれの地域によって個体の色彩が異なっているのです。

岩木山で見つけた個体は淡い水色、八甲田大岳の個体は赤胴色でした。これらに対し、低標高の野内川中流で見つけた個体は真っ黒でした。



ハナウドゾウムシ (八甲田山大岳)



ハナウドゾウムシ (岩木山)



同じ種類の昆虫でも、生息場所によって体の色に変化があるんだね

		生物暦 (昨年) 5月										天気										植物 野鳥 動物 昆虫 は虫類・両生類										
日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
		日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
観察できたもの		ヒヨウノセンカタバミ	カキトウシ・カワセミ	ムラサキヤシオツジ	カモシカ・オオルリ	コヨウラクツツジ	フデリンドウ・チゴユリ	ヒトリシズカ	オオヤマザクラ・キアゲハ	ミツバアケビ・シマヘビ	ヒオドシチヨウ	オオタチツボスミレ	タヌキ・キビタキ	ホウチャクソウ	サンカヨウ・ニリンソウ	ツクバネソウ・ヤマツツジ	クルマバツクバネソウ	オオスズメバチ	エゾハルゼミ	カモシカ・サル・テン	アカシヨウビン	タニウツギ・シートタテハ	マイツルソウ・トラツグミ	チゴユリ・ユキザサ・ウグイス	ケナシヤフデマリ・コンロンソウ	ヒロハテンナンショウ・シムグリ	コノハズク・ヨタカ・ジュウイチ	トチノキ・アオダイショウ	コウライテンナンショウ	ウスバシロチョウ	モリアオガエル	ギンリョウソウ
天		☂	☀	☂	☁	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☂	☀	☁	☀	☀	☂	☀	☀	☂	

● ツチアケビ【土通草】

長尾 キヨ（津軽植物の会）

梵珠山は春から秋にかけてラン科植物が意外と多い。2021年は第1駐車場のわきにツチアケビが大発生し話題になった。なんと16株が摘踏みしたのである。

ツチアケビは北海道から奄美大島まで分布し、落葉樹林やササやぶなどに稀に生える。

菌類のナラタケと共生する大型の腐生ランで、日本の固有種である。

太くて長い根茎がある。茎は太く数本がかたまって直立する。高さ50～100cm。一見してわかるように葉緑素がなく全体が黄褐色をしていて、ところどころに鱗片があるだけで葉らしいものはない。6～8月分枝した花序に多くの花をつける。花は黄褐色で、径1.5～2cm程度。半開きとなる。がく片は長楕円形、先は内方へ曲がって鈍頭に近く、花弁は同じ高さだが少しそれより短い。唇弁は広げると丸みのある広卵形でやや多肉質で黄色が強い。地味な感じだがじっくり観察

すると、まさしくランの顔でなかなか美しい。

9月頃果実はラン科と思えない異様なもので、バナナを思わせる軽い稜のある心持ちゆがんだ楕円形で長さ6～8cm太さ1.5～2.5cm、しかも深い暗赤色をして枝から垂れ下がるので、林内で出会うとびっくりしてしまうのである。熟してもアケビのように裂開しない。稀に黄色のものがあるという。

ツチアケビの名は、地面に直接生えるアケビの意味で、生態と果実の形態とをいいあらわして納得する。

別名として、ヤマトウガラシー果実の暗赤色で光沢のあるトウガラシに見立てる。ヤマノカミノシャクジョウ（山の神の錫杖）ー行者や僧侶が持つ杖の一種で花茎につく花の全形を杖に見立てる。

果実を乾燥したものが生薬の「土通草^{どつうそう}」で婦人病・強壯・強精・利尿剤とされる。



ツチアケビの花（2016年7月24日）



ツチアケビの果実（2016年9月2日）

		生物暦 (昨年)										6月										☀️☁️☔️: 天気										植物	野鳥	動物	昆虫	は虫類・両生類	
日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						
観	察	ミヤマカラスアゲハ	ヤグルマソウ・オオハナウド	ササバギラン・コケイラン	ムラサキサギコケ・サワフタギ	ジンヨウイチャクソウ	カモシカ・タヌキ	シナノキ・アナグマ・キツネ	キクガシラコウモリ	ハナムグリ・ニホンカワトンボ	ヤマボウシ・カラスアゲハ	アナグマ・アオダイショウ	ヤナギトラノオ・タヌキ・サル	ヒメクロサナエ・アナグマ	タヌキ・アカシヨウビン	カケス・シジュウカラ	キイロスズメバチ	フタリスズカ・サイハイラン	フジミドリシジミ	アカスジキンカメムシ	ウリノキ・タヌキ	ナツハゼ・サル・マムシ	サイハイラン・コケイラン	オニシモツケ・タヌキ	タヌキ・カケス	エンハルゼミ・タヌキ	アカシヨウビン・ミノサザイ	オニノヤガラ・コムラサキ	メスアカミドリシジミ・リス	ジガバチソウ	ウメガサソウ						
天		☔️	☀️	☔️	☁️	☁️	☔️	☔️	☀️	☀️	☁️	☁️	☀️	☀️	☀️	☁️	☁️	☀️	☁️	☀️	☀️	☀️	☁️	☔️	☀️	☁️	☀️	☔️	☔️	☀️							